

「食べる」という農作業

ファーム伊達家 伊達寛記

北海道最大の都市、札幌で新規就農して12年目のシーズンを迎えました。

①自然栽培、②自家採種、③CSA(年会費前払い、地元限定の会員制宅配システム)という非常に特殊な農業を営んでいますが、これまでたくさんの方の力をお借りして、助けていただいて農業を続けてきました。

CSAとはCommunity Supported Agricultureの略(日本語では「地域が支える農業」と訳される)です。

CSAはアメリカで日本の「産地直送」を参考にして作られた農産物の宅配システムで、会員が農産物を直接手渡せる距離に住む近隣住民に限定されること、年会費や農産物の代金を前払いで集めること、農産物の多寡にかかわらず会員が支払う金額は一定であることなどが特徴です。

私たちの農場では、「ファーム伊達家・旬の野菜セット」という名称で、CSAのシステムを参考にしながら、札幌市内限定の会員さんに無肥料・無農薬の自然栽培、自家採種の野菜を直接手渡してきました。

「先週のズッキーニおいしかったですよ。」

「どういう風に食べましたか？」

「フライにして食べました。衣はサクサク、ズッキーニはジューシーでおいしかったですよ。」

そんな会話の積み重ねが大きな支えになってきました。

野菜が豊作の時も不作の時も、大切に食べ

てくださる会員さんがいるから、私たちは野菜を作り、農業を続けていくことができます。

会員さんにお伝えしていることがあります。それは「『食べる』ことも大切な農作業です。一緒に『食べる』という農作業を楽しみましょう。」ということです。

農家である私たちは、畑で種を播き、苗を植え、お世話をして、収穫し、野菜セットをお届けするという農作業をします。そして、会員さんが「食べる」ことによって私たちの農作業は完結します。

「『食べる』という農作業」という言葉から、私たちの畑での農作業と会員さんがそれぞれの家庭の食卓で食べることは一連のつながりの中にあることを感じてもらえたら、ありがたいと考えています。

また、会員さんが「食べる」という農作業を担ってくださることにより、私たちは農業を続けることができ、それは、農地を守り、地域を守り、環境を守ることに繋がっていくことも、時々でいいので意識してもらえたらと思っています。

シーズンに入り、農作業に忙しい日々が続いていますが、毎日の食卓はおいしく、楽しく、でも、時々畑と食卓のつながりに想いを巡らせながら「『食べる』という農作業」を会員さんと一緒に楽しんでいけるよう願いを込めて今年も種を播き、お世話をして、野菜セットをお届けしていきたいと考えています。

(だて ひろき)